

---

# オラのした恋

移住民テス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

オラのした恋

### 【Nコード】

N7701D

### 【作者名】

移住民テス

### 【あらすじ】

専門学校に通っていたオラに突然訪れた恋！！

## ハートじかけのオンガク

この話はオラがまだ若い頃にした恋の話です。

あれはオラがまだ専門学生で横浜の居酒屋の呼び込みをしてた頃の話です。

一緒に呼び込みのバイトをしてた幼馴染のKが仕事中にナンパした子達と深夜遊ぶ事になりました。

2人とも地方から出てきた看護学生でその半年前に失恋してたオラにはたまらない、田舎くさい癒し系の子でした。

オラはその看護学生の一人、Mとすぐ付き合う事になりました。

その子はオラの事しか見ない一途ないい子でした。

でも当時若さゆえに猿（エッチ好き）だった事と呼び込みというアルバイト環境、Mが一途ということをいい事に一緒にいない日はナンパばかりして浮気ばかりしてました。

その事がMにはれても『もてない彼氏よりもてる彼氏の方がいいだろう！！好きなのはお前だけなんだから！！やりたい時にいないお前が悪い！！』って逆切れしてました。

そんな事が頻繁にあったので彼女は俺を信用しなくなり妊娠した事も隠して俺にも会わず深夜毎日カラオケ屋のバイトをしてました。

（俺に頼らず1人で子供を育てようと思ったみたいです）

でも無理がたたって流産しました。  
流産後に妊娠してた話をしてきたので

俺『なんで隠してたんだよ!!』

M『もう裏切られるのは沢山だったただえ!!』

俺『・・・』

俺は何も答えられなくなり軽い気持ちで『また作ればいいじゃん』

この言葉を発したあとMは泣きながら立ち去り俺に全然連絡をくれなくなりした。(当たり前だよね・・・)

でもそんな矢先、俺の父親が事故でなくなりました。

精神的にまいってしまった俺は一ヶ月近く連絡をとらなかつたMに電話で『お通夜と葬式、つてかずーっと一緒にいてくれないか』

M『もう貴方とは一緒にいたくありません!!別れてください』

プープープー・・・

その後、何回も電話したのですが電話にでてくれず、拳句の果てにMの今の彼氏と名乗る男から電話が来ました。

男『もうMに付きまとわないでください!!貴方がMにした事わかってますか?』

俺『てめえに関係ないんだよ!!俺はMと別れたつもりもないしこ

れは二人の問題なんだから！！それ以上何か文句があるならこつちまで来い！！殺してやるから！！』こつ言葉をはつすると相手は電話をきりました。

その後、頭に来た俺はすぐMの住む学生寮に向かいました。

寮の外へMを呼び出し『今日だけでもいいから一緒にいてくれ』

M『何回も言うけどもう貴方と一緒に居たくありません！！貴方のお父さんやお母さんにはお世話になったけどお通夜にもでたくありません！！』

その瞬間俺の中の何かが切れて生まれて初めて女の子に手をあげてしまいました。（今でも後悔してます）

結局この暴力が怖かったのかお通夜お葬式に参加してくれてその後も今までどおり付き合う事になりました。

でも別れの日が突然訪れました。

卒業と同時に電話がなくなりました。

この時オラは彼女がずーっと我慢して付き合ってた事をこの時知りました。

それでも俺はMに持たせていた携帯電話を解約せずに毎日かけました。

でも思いは届かず、つながる事はありませんでした。

俺がすっかりすればいつか戻ってくるのではないかと一生懸命働きました。（帰って来た時何不自由ない暮らしをさせるために）

でも1年後、俺はあきらめて携帯電話を解約しました。

その後俺はいろんな恋をしてきましたが本当に好きだったのはMだけだったと思います。

それが若かりし日の錯覚だったとしても・・・

P・S・この話の題名はMと付き合ってた頃2人でよく聞いたカジヒデキさんの曲です。みんなも是非聞いてください。ジャズ好きの方、ベース音好きの方にはたまらない1曲です。

P・S・SのP・S・Mさんありがとう。あの時精神的に弱くてよく過呼吸で病院に運ばれていた俺といつも一緒にいてくれて。貴方以上に好きになれる子を探して幸せになります。

無理かな・・・(笑)

## あんなに愛しあったのに

前の話で一年間、携帯を解約しないでMを待ったところから始めましょう。

Mがいなくなった後、最初はすぐ帰ってくると思ったので帰ってくるまでしっかりしようと思ひ、パチプロ生活に幕を閉じ派遣会社に登録して働いてました。(学生の際は呼び込みのバイトとギャンブルで生活してました。)

最初は覚える事がいっぱいあったし、販売の派遣だったのでいろんな人としやべれて気がまぎれましたがだんだん仕事を覚え、暇な時間が出るようになるとMが帰ってこないんじゃないかと思ひ出しては凹んでました。

7

その内3ヶ月が経ち、半年が経ちもう帰ってこない事を実感しはじめた俺はやり直せないにしろ最後にきちんと会って話をしたかったので1度行った事のない長野の彼女のおじいちゃんの家まで彼女の情報を得るべく足を運びました。(オラってストーカーかな!?)

おじいちゃんの家と言っても両親が離婚していたため必ずMが尋ねに来るかわかりませんがおじいさんに電話番号と手紙を託し返りました。

それから半年経った頃には日々の充実さに助けられてMの事がある程度吹っ切る事が出来たのでMに持たせていた携帯電話を解約しました。

Mがいなくなつて2回目の初夏、友達の紹介で4歳年下のAと言う女の子と付き合いました。

当時21歳だった俺は17歳と付き合いするのは少し戸惑いました。

付き合い始めて初めての彼女の誕生日である11月1日!!

友達のお店でささやかなパーティをしていると僕の携帯に非通知で電話がかかってきました。

誰かと思って店を出て電話をとってみると10秒程無言だったのでまさかと思って『M??』

そしたら急に『ごめんなさい。急にいなくなつてごめんなさい。泣きながらのMからの電話でした。』

俺『俺こそごめん。全然わかってあげられなくて。』

M 『ううん。私が悪いの』

数分間お互いに謝りっぱなしだったので話を換えようと『今、何処に住んでるの？何故非通知なの？』

M 『住んでる場所と電話番号は教えられない』

俺 『なんで??』

M 『まだ貴方が怖いのだ。』

俺は何も言えなくなりそうでしたが頑張って

俺 『誰か付き合ってる人いるの?』

M 『仕事（看護師）が忙しくてそんな暇ないだえ。』

俺 『会ってからはつきりさせたいから会えない??』

M 『年末なら会えるかも!』

俺『わかった。番号も住んでる場所も聞かないから週1回は電話して。』

M『うん。』

電話を切って店に戻ったけどMの事しか頭に浮かばなかったのでAには悪いと思いましたが、誕生日パーティーが終って2人きりになった時に別れてくれと告げました。

Aは泣きながら『なんで?』

俺『自分に嘘はつけないし、このまま付き合ってもAを傷つけるだけだから。誕生日なのにこんな話して御免ね。』

A『なんで急に?しかも今日なの?』

俺『さつき店の外で電話してたじゃん、前に話した凄いい好きだった彼女からだったんだ。もう一度やり直せるかわからないけど会ってはつきりさせるまでその子の事で頭がいっぱいになりそうだから。ごめんね』

俺はAを横浜において家に帰りました。

結局、Mから電話は週に1度はきてましたが年末仕事を休めそうもなくなつたから会えそうもないと言われました。

その後、電話の数もだんだん減って行きました。

P・S・Aまで私情で傷つけた俺はバカでした。Aさんあの時は御免ね。 m (——) m

P・S・PのP・S・Sのタイトルもカジ君の曲です。切なくなりました  
人は是非聞いてください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7701d/>

---

オラのした恋

2010年10月28日03時57分発行